

学校本部 道本部 青年コース

要求書づくり ↓ 教宣紙づくり ↓ 団体交渉を学ぶ

『ひと言でも職場で話そう』

5月16～18日の3日間、札幌市・自治労会館で、自治労北海道本部学校「青年コース」を開いた。

コースは、独自要求闘争をテーマに、各班を1つの単組青年部と見立て、グループでディスカッションした。8時間にわたる職場・生活の状況、不安・不満の実態を付き合わせ、要求を確立し当局に提出、要求内容の周知方法として教宣講座で教宣紙を作成した。

て、グループでディスカッションした。8時間にわたる職場・生活の状況、不安・不満の実態を付き合わせ、要求を確立し当局に提出、要求内容の周知方法として教宣講座で教宣紙を作成した。

最後に渡邊青年部長が「ひと言だけでも良い、組合のことじゃなくても良い、職場・単組の仲間と声をかけよう。話すことが重要だ」とまとめ、団結



必死に作った教宣紙



手厳しい道本部執行部が当局になった模擬団体交渉＝5月18日、自治労会館

現在、青年部では「集まる場所がない、集まらない、集まって何を話しているのかわからない、忙しさから仲間と声をかけるのにちゅうちょしてしまう」ということが大きな課題となっている。「集まる場は必要なのか、どのように集まって

STOP! THE 拡差社会

反貧困全道キャラバン

『あたりまえ』取り戻そう



石狩・後志キャラバン、中村誠吾隊長が決意表明

連合北海道の、許すな！雇用と地域の格差拡大をスローガンに「ストップ・ザ・格差社会・反貧困全道キャラバン」行動が全道6つのコースで展開された。

5月26日、道庁北門前で、石狩・後志地区を回るキャラバンの出発式・札幌集会所が開催された。連合北海道・村田事務局

長は「この社会が『あたりまえ』を取り戻すため、4日間のキャラバンに1人でも多くの人に参加してもらいたい」とあいさつした。

日本は、自公政権による政策であらゆる格差が広がった。フルタイムで働いても経済的に自立した生活することができないワーキングプアや、地方都市では、保険証を所

持しているもサービスを受けられない医療難民や介護難民を産み出している。連合北海道はワーキングプアの象徴であるパート・契約・派遣労働者等の格差を是正し、医療・介護難民やワーキングプアを解消し、すべての労働者が生涯を通して安心して暮らせる福祉型社会の実現を図る。

組合ってなに？



職場だより

【苫小牧市立病院職員組合】5月9日、苫小牧病職で、2008年度新入組合員対象のオリエンテーションを開いた。

自治労の自主福祉活動についても、自治労共済道支部・三浦事務局長が制度の説明をし、さらに、日常業務の中で「公務員であるが故に生じる賠償責任」についての説明を聞き、公務員としての責任についても認識した。

執行委員として任務に就いている、小林部長が「自治体病院を取り巻く情勢」について講演。自分たちが働く医療現場、公立病院の厳しい現状に時にはうなずきながら、真剣に耳を傾けていた。

組織内の小林洋一市議からは、「地方公務員の現状や市に対する意見書の協議内容」について話



説明を聞く顔は真剣＝5月9日、苫小牧市立病院・講堂

に、参加者は興味津々。緊張していた新入組合員に笑顔が見られるようになったのは記念写真の撮影の頃。その後のボーリング大会・夕食交流会

では大いに賑わい、組合員同士の交流がさらに深まった。(企画調査部・執行委員 斎藤 美幸)

女性専従3人・空知の「和」

【空知地方本部】空知地本では、女性部独立前の準備会の代表から含めて女性部長は現在5代目。女性部としての歴史はまだ浅いものの、歴代役員経験者の仲の良さは抜群！

歴代役員経験者に、声を掛け合う温泉などでの学習会には、結婚の都合で退職した方も、現在、育児のために組合活動からは離れている方も一同に会して、和気あいあいと朝まで語ります。こ



参加者は、まだまだいたのですが「写真！」と気づいた時には帰ったあと...でした

忙中余話

娘が生まれて7カ月、妻も職場復帰し、私も子育てに関わるようになった。娘は、母親が一番の存在と通っているように思っている。親の役割は何なのかは分からない。今は妻の支持通りに動かしにくい。納得できないが...。そんな時、私が抱っこしても全く効果なしというか、逆効果。さらに機嫌が悪くなる。娘はどんなに機嫌が悪くても「母乳」を飲めばそれで満足し、機嫌は絶対調子。妻は「母乳」という強力な武器を持ち、どんな時でも娘を黙らせることができる。言うまでもないが私は男 (引地 圭太)